

2026年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	総合演習VI 「会計と経営・経済」		
担当教員名	金子 輝雄、池田 享誉		
ディプロマ・ポリシー (DP) との関係			
	DP1	DP2	DP3
	○	○	○
科目 目 の テ ー マ	<p>本総合演習VIは前半を金子、後半を池田の二名で担当する。</p> <p>(前半) SDGs 実現のために会計からできることをテーマに展開したいと考えている。ポイントは企業の社会的存在価値 (パーパス) を認識することである。これまで任意であった「統合報告」の内容が制度化され、新しい会計モデルとして「新たな付加価値会計」が提唱されている。課税の分野でも、環境・社会等に配慮した所得課税のモデルとして「付加価値キャッシュ・フロー法人税」が提唱されているのでこれらを紹介する。</p> <p>(後半) 経済的には資本主義、政治的には民主主義である現代社会は、「資本」とその増加分である「利益」の影響下におかれていると言っても過言ではない。この「資本」と「利益」を記録・計算するのが、「会計」である。本演習では、「会計」と「社会」とのかかわりについて、とくに「会計と経営」、「会計と経済」に焦点をあてて議論し、それらが社会に及ぼしている影響について考察する。</p>		
科目 内 容 ・ 方 法 等	<p>(前半) 関連する文献を読み込んで、それに基づいて討論を行う。現在、筆者の関心のあるテーマは、持続可能な社会の実現に向けて会計・税制の観点から提言を行うことである。従来の株主資本利益 (所得) 計算のための会計・税制から社会及び自然環境等との共存を意識した新たな会計・税制への転換、つまり資本のための会計から人間のための会計へ、また国家のための税制から納税者 (国民) 主権の税制への転換を念頭に、受講者とディスカッションを重ねていきたい。</p> <p>(後半) まず、「資本」とその増加分である「利益」を記録・計算している「複式簿記」の構造と役割を確認したうえで、「財務会計と管理会計」が「経営と経済」に及ぼしている影響 (例えば、税、配当、賞与、給与、投資・与信等経済的意思決定、その他経営上の様々な意思決定への情報提供等) について議論する。それらの議論を通じて、資本主義と民主主義の関わりについての理解を深めていく。</p>		
到達目標：利益概念の理解、利益の計算構造、利益と経済社会との関係を今日的に考察する。			
評価方法及び評価基準：評価方法及び評価基準：課題に対する取り組みと討論の状況による。60点未満をF、60～69点をC、70～79点をB、80点以上をAとし、C以上の評価に単位を与える。<各評価の基準>A評価：授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること。B評価：授業内容の理解に基づいて、より広いケースにその理解を応用できることC評価：授業内容について、概ね理解していること。			
授業の方法：文献輪読と討論			